

## 天声人語

「自民党総裁としての考え方」は相当詳しく読売新聞に書いてある。せひそれを熟読していたい。だいてもいい」。今週初め、安倍晋三首相の放った言葉が尾を引いている▼読売新聞のインタビューなどで、首相は9条に自衛隊の存在を明記し、2020年に施行したいと語った。なのに「あれは党総裁としての発言。国会は首相として答弁する場」と説明をはぐらかす▼今週、「分身?」という風刺画が岐阜新聞や琉球新報など地方紙に載った。私人と公人を使い分ける妻、首相と党総裁を使い分ける夫を皮肉つた▼「日刊ゲンダイを読んでみて下さい。これが萎縮している姿ですか」。首相は昨年も、そんな答弁をしている。政権批判の編集方針で知られる夕刊紙の名を挙げ、自分はメディアを萎縮させてはいないと訴えた。珍妙な論法だった▼今回ははるかに深刻である。国会で答弁することは首相にとって本務中の本務だろう。憲法を尊重する義務のある行政の長が改憲を唱えるのはどうかと思うが、それ以上に首相と党総裁の使い分けが目にある。安倍晋三氏は常に安倍晋三氏である。真意を国会で一から説明する責務があるう▼畠違いを承知で例えるならば、落語家が噺を投げだして「あらすじを書いた本でも買って熟読を」と開き直るようなものか。八代目桂文樂の引退を思い出す。口演の途中で言葉に詰まり、「勉強し直して参ります」と高座を降りた。おのが本分を果たせぬことを悟つて復帰せず、言い訳もしなかつた。

2017・5・13